

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 1 月 22 日 (2015.1.22)

【公表番号】特表 2013-515087 (P2013-515087A)

【公表日】平成 25 年 5 月 2 日 (2013.5.2)

【年通号数】公開・登録公報 2013-021

【出願番号】特願 2012-543597 (P2012-543597)

【国際特許分類】

C 0 8 L 23/10 (2006.01)

C 0 8 J 3/22 (2006.01)

C 0 8 F 4/654 (2006.01)

C 0 8 L 53/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/14 (2006.01)

C 0 8 K 3/34 (2006.01)

C 0 8 F 10/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/16 (2006.01)

C 0 8 L 21/00 (2006.01)

C 0 8 L 23/18 (2006.01)

【 F I 】

C 0 8 L 23/10

C 0 8 J 3/22 C E S

C 0 8 F 4/654

C 0 8 L 53/00

C 0 8 L 23/14

C 0 8 K 3/34

C 0 8 F 10/00

C 0 8 L 23/16

C 0 8 L 21/00

C 0 8 L 23/18

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 26 年 12 月 1 日 (2014.12.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A) 40 ~ 75 重量%の、プロピレンホモポリマーからなるポリプロピレン成分であって、少なくとも 85 重量%のプロピレンを含み、下記式：

$$\frac{1}{A^1 + WA^2} \ln \frac{MFR^A}{A^1 + WA^2} = \left[ \frac{WA^1}{WA^1 + WA^2} \right] \times \frac{1}{A^1 + WA^2} \ln \frac{MFR^1}{A^1 + WA^2} + \left[ \frac{WA^2}{WA^1 + WA^2} \right] \times \frac{1}{A^1 + WA^2} \ln \frac{MFR^2}{A^1 + WA^2}$$

(上記式は、ポリプロピレン成分が 2 ポリマー成分 A<sup>1</sup>)、A<sup>2</sup>) からなる場合の式であって、式中、WA<sup>1</sup> と WA<sup>2</sup> は、それぞれ成分 A<sup>1</sup>) と A<sup>2</sup>) の重量を表し、MFR<sup>A</sup> は、A) の MFR の計算値を、MFR<sup>1</sup> と MFR<sup>2</sup> は、それぞれ ASTM - D 1238、条件 L (230、2.16 kg の荷重) で測定した成分 A<sup>1</sup>) と A<sup>2</sup>) の MFR である)

で表される MFR L 値が 90 g / 10 分以上であり、室温でのキシレンへの溶解度が 2

0 重量%未満であるものと；

B) 3 ~ 20 重量%のエチレンと一種以上の  $C_4 - C_{10}$  - オレフィンのコポリマーであって、15 ~ 35 重量%の  $C_4 - C_{10}$  - オレフィンを含み、室温でのキシレンへの溶解度が50 重量%より大きく、キシレン可溶性の画分の固有粘度が  $2.5 \sim 4 \text{ dl/g}$  であるものと；

C) 10 ~ 35 重量%の、B)とは異なる一種以上のエラストマー系またはプラスチック系のポリマーであって、ショアA硬度が90点以下であるものと；

D) 5 ~ 25 重量%の鉱物系充填材であって、タルク、 $CaCO_3$ 、シリカ、マイカ、珪灰石 ( $CaSiO_3$ )、粘土、珪藻土、酸化チタン、ゼオライトからなる群より選択される鉱物系充填材と；

E) 0.5 ~ 5 重量%の、C)とは異なるエチレンとプロピレンを含むコポリマーであって、エチレン含量が20 ~ 70 重量%で、室温でのキシレンへの溶解度が50 重量%より大きく、キシレン可溶性の画分の固有粘度が  $4 \sim 9 \text{ dl/g}$  であるものを含むポリオレフィン組成物であって、

A)、B)、C)、D)及びE)の量が、 $A) + B) + C) + D) + E)$ の総重量に対する値である組成物。

【請求項2】

さらに、 $A) + B) + C) + D) + E)$ の100重量部に対して0.01 ~ 0.5重量部の核剤F)を含む請求項1に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項3】

MFR値が  $10 \text{ g/10分}$  以上である請求項1に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項4】

成分B)の室温でキシレンに不溶な画分(XI)の量が次式を満たす

$$(XI) < 1.14 \times B_2 - 3.4$$

(式中、 $B_2$ は、成分B)の重量に対する重量%として表した成分B)のエチレン量である)

請求項1に記載のポリオレフィン組成物。

【請求項5】

請求項1 ~ 4のいずれか1項に記載のポリオレフィン組成物の製造方法であって

A<sup>I</sup>) 60 ~ 85 重量%の、プロピレンホモポリマーからなるポリプロピレン成分であって、少なくとも85 重量%のプロピレンを含み、ASTM-D1238、条件L(230、2.16 kgの荷重)で測定したMFR値が  $20 \text{ g/10分}$  以上であり、室温でのキシレンへの溶解度が20 重量%未満であるものと；

B<sup>I</sup>) 3 ~ 20 重量%のエチレンと一種以上の  $C_4 - C_{10}$  - オレフィンのコポリマーであって、15 ~ 35 重量%の  $C_4 - C_{10}$  - オレフィンを含み、室温でのキシレンへの溶解度が50 重量%より大きく、キシレン可溶性の画分の固有粘度が  $2.5 \sim 4 \text{ dl/g}$  であるもの；

を含み、

前記A<sup>I</sup>)成分が前記A)成分の一部となり、前記B<sup>I</sup>)成分が前記B)成分となるマスターバッチ組成物を、前記A)成分の残部、前記C)成分及び前記E)成分を含む他のポリオレフィン成分とメルトブレンドすることからなるポリオレフィン組成物の製造方法。

【請求項6】

上記マスターバッチ組成物のMFR値が  $2 \text{ g/10分}$  以上である請求項5に記載の方法。

【請求項7】

上記マスターバッチ組成物の100 ~ 130 °Cの間の温度で検出されるDSC溶融ピークのHmが  $1 \text{ J/g}$  以上である請求項5に記載の方法。

【請求項8】

上記マスターバッチ組成物が、 $MgCl_2$ に担持されたチーグラ-ナッタ触媒の存在

下での重合で得られる請求項 5 に記載の方法。

【請求項 9】

請求項 1 ~ 4 のいずれか 1 項に記載のポリオレフィン組成物を含む製品。

【請求項 10】

ドアトリムの形状の請求項 9 に記載の製品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0004

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0004】

特定のプロピレンポリマーとエチレン / - オレフィンコポリマーを選択し、その組成物の他の特徴やいろいろな成分の比率を組み合わせることで、望ましいバランスの機械的性質（特に曲げ弾性率とアイゾット衝撃強度）や溶融状態での好ましい流動性、低い熱収縮を達成できることが明らかとなった。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

このような場合には、A) の MFR L 値は、それぞれ単一のポリマーの量と MFR L 値を基礎として、既知のポリオレフィン組成物の MFR とそれぞれの成分の MFR との間の相関関係から容易に決定可能であり、例えば、二ポリマー成分 A1 と A2 の場合、この相関は、次のように表される。

$$\ln MFR^A = [WA^1 / (WA^1 + WA^2)] \times \ln MFR^1 + [WA^2 / (WA^1 + WA^2)] \times \ln MFR^2$$

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

これは、ダウ・ケミカル社から ENR 7467 (R) という商品名で販売されている。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0064

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0064】

ポリマー組成物の特性を評価するのに以下の分析方法を用いる。

メルトフローレート：特記しない場合、ASTM - D 1238、条件 L（即ち 230、2.16 kg の荷重）により測定

[ ] 固有粘度：テトラヒドロナフタレン中で 135 で測定

エチレンとブテンの含量：I . R . スペクトロスコピー

曲げ弾性率：ISO 178

破断点引張強度：ISO 527

破断伸度：ISO 527

ノッチ付きアイゾット衝撃試験：ISO 180 / 1 A

ショア A と D 硬度：ASTM - D 2240

光沢度

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0093

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0093】

上記のポリオレフィン成分に加えて、それぞれ成分 D ) と F ) に対応するタルクと核剤が加えられる。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0096

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0096】

ナトリウム - 2 , 2 ' - メチレン - ビス ( 4 , 6 - ジ - t - ブチルフェニル ) - ホスフェート ( 商品名 N A 1 1 、旭電化工業製 ) を、核剤 F ) として用いる。すべての実施例の組成物中の F ) の量は、A ) + B ) + C ) + D ) + E ) の 1 0 0 重量部に対して 0 . 1 重量部である。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0099

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0099】

表 IV

実施例	1	2	比較例 1
MFR-L (g/10 分)	25	28	36
曲げ弾性率 (MPa)	1347	1326	1363
破断点引張強度 (MPa)	18	17	19
破断伸度 (%a)	501	499	504
23° C でのアイゾット衝撃強度 (KJ/m <sup>2</sup> )	57	57	46
-15° C でのアイゾット衝撃強度 (KJ/m <sup>2</sup> )	10	11	5
-30° C でのアイゾット衝撃強度 (KJ/m <sup>2</sup> )	5	5	3.7
縦方向の収縮 (%)	0.88	0.9	0.63
横方向の収縮 (%)	1.28	1.31	1.05
光沢度 (%)	69	68	77